

学力向上に効果のある取組事例

臼杵市立下北小学校

①基礎的・基本的な知識及び技能の習得

取組の具体①

○特別支援の視点を
大切にした授業改善

- ・落ち着いた教室環境
(座席配置・前面掲示)
- ・UD化された板書
- ・思考ツールの積極的活用
- ・ICT機器の積極的活用
- ・学年に応じた話し合い活動

※全教職員で、学年に応じた
「目指す子ども像」を話し合い、
話し合い活動の在り方を系統
化。検証のための校内研修
の実施

学年	目指す子ども像	ペア・グルーブトーク
1・2年	友だちの考えを聴き、受け止めることができる。	1年・・・①朝活で「聴くスキル」を継続。 ②台本ありのペアトーク（簡単なもの・話型） 例：分かりました。同じです。 「〇〇です。どうですか?」「よいです。」 2年・・・①話型ありのペアトーク（話型を増やす） 例：分かりました。その後感想を伝える等 ②自分の考えを書く時間を確保してから行う。
3・4年	友だちの考えを聴き、考えを見直すことができる。	3年・・・①グルーブトーク役割を決める。司会・ルール (相手の言ったキーワードを復唱させる) ②ペアトーク 自分と友だちの考えの同異を意識させる。 (話型なし) 話し合いの反応の話型からの脱却 ⇒低からおこなっていた「〇〇です。どうですか?」 「よいです。」という話型から、 「私も同じで〜と考えました。」 「ぼくは違って〜と思いました。」へ。 4年・・・①グルーブトーク 役割・司会・ルールを決める。 (相手の言ったキーワードを復唱させる) ②ペアトーク 友だちの考えを自分の言葉で発表 させる。(話型はなし)
5・6年	友だちと考えを伝え合い、相手の考えを認める。友だちの考えに意見を言ったり、自分の考えを変容させたりできる。または、自分の考えを強固にするなど練りあいができる。グルーブトークでは、自分たちの力で意見をまとめられるようにする。	5・6年・・・①ペアトーク (困りがあるときや自分の考えを伝えるときに短時間で確保、隣の人など固定ではなく、席を立ててもよい) ②グルーブトーク 自分たちで役割を決め、お互いに考えを伝えたり聴いたりして考えを広げ深める。話型はなしで自由討論。

取組の具体②

○子ども主体のなかよし班学習の実施。

週に1回、異学年で学び合う時間を確保。子どもたちの希望から、算数を実施。

(児童の思い)

算数の九九を覚えていないと高学年になって困るから低学年のころからしっかりと覚えていてほしい。

(方法)

①あいさつ⇒②なかよし班ファイル配布⇒③5分間自分の学習⇒④お互いに丸付けしたり、早く終わったら復習問題を出したりする学び合いタイム⇒⑤ファイル回収後、あいさつ。

・学期ごとに6年生がアンケートを全校にとり、感想を聞き改善を行う。

(全校児童のアンケート結果)

- ・「静かにできている」 肯定的評価 99%
- ・「教え合いができています」 肯定的評価 97%

<感想>

- ・低学年とコミュニケーションがとれる。
- ・みんなが落ち着いて学習でき、教え合うことで班の仲も深まる。
- ・楽しく勉強できる。分からないことが分かるようになった。
- ・もっと時間を増やしてほしい。

